

dinos nvlab

老舗総合通販の業務効率を上げたアンラーン術

株式会社DINOS CORPORATION

ソリューション事業部

ビジネスアナリスト 中島弘輔

INDEX

- 自己紹介
- Nulabさんとの出会い
- 老舗総合通販dinos当時のEC運用
- バックログと共(友)に新しいEC運用
- 社内へのアンラーンをどの様に行った？
- 奇想天外編
- まとめ

自己紹介

～*いったいあなたは何者??*～

自己紹介



2006年

株式会社フルブライト(設立：創立2004年)：副社長
Webや映像・音楽を上流からお手伝いできる制作会社

2014年

株式会社TUKURU：技術責任者
製菓製パン通販cottaのWebチームを設立・運営

2016年

株式会社DINOS CORPORATION：ビジネスアナリスト
プロジェクトマネジメントから開発・運用までECサイト運
営のエキスパート(自称)UI・UX改善を担当。
目的としたシステムメインの仕事を担当。ビジネスアナリ
ストとして日々直面する様々な課題解決をこなす。

自己紹介

<社外活動>

- 大学教授（電子情報通信学会）との
専門分野におけるビジネス活用についての交流会
- IT界隈の友人（DeNAアプリ開発所属、mixiロボット開発所属）との
情報交換・交流会
- 東京・名古屋・福岡スタートアップ交流会
- 秀吉会オブザーブ出席

nulabさんとの出会い♡

～*奇跡*～

nulabさんとの出会い

起業した制作会社時代（2006年～）に
クライアント業務の課題解決に困り
バックログの利用を開始

DINOS事業だけでなく様々な企業へ
バックログを中心としたツール導入を支援

nulabさんとの出会い

その後16年の歳月を経て2022年にて
自らnulabさんのお問い合わせフォームより**アタック**



nulab

老舗総合通販 **dinos** 当時のEC運用

～*最強の紙社会*～

dinos当時のEC運用：入社当初（2016）の運用

- バナーなどクリエイティブ制作
- システム開発の依頼（要求定義や要件定義）
- 各コンテンツの運用（企画～制作～実装～ローテーション）

これらは全てエクセルやメール
ローカルでのメモ管理、紙ベースの依頼書
で運用されていた

dinos当時のEC運用：入社当初（2016）の運用

システム開発依頼書			
管理番号		記入日	
		起案部署	
		担当者（代表）	
以下、起案部署記入欄			
件名		通常・緊急・区分	通常
標的	該当する本年度経営目標にチェックをつけてください。 <input type="checkbox"/> 売上予算の達成 <input type="checkbox"/> 粗利予算の達成 <input type="checkbox"/> 品質とサービスの追及 <input type="checkbox"/> 新規顧客の獲得 <input type="checkbox"/> 商売力強化のための施策 <input type="checkbox"/> 社内外リソースの活用・連携（ナレッジの共有・スキルの伝承・協業など） <input type="checkbox"/> 経営目標の該当なし		
行われる	以下の選択枝の該当する項目にチェックをつけてください。 <input type="checkbox"/> 売上高の向上 <input type="checkbox"/> 業務効率化・コストの削減 <input type="checkbox"/> 顧客・取引先・ユーザー部門満足度の向上 <input type="checkbox"/> 新規顧客獲得 <input type="checkbox"/> その他 <small>※選択枝のない場合は、必ず寄附「有り」で「ア」を選択してください。</small>		
内容			
数量・効果目標			
関連部署（複数可）		担当者（複数可）	
添付資料の有無		あり・なし	
以下、情報システム部記入欄。起案部署からの提出時には情報システム部と事前に打ち合わせて記載された状態で提出すること。（別紙例示あり）			
効果測定の方法	指標の収集方法		
	指標収集の主体者		
	指標を用いた効果の検証方法		
効果の検証時期	年	月	
想定開発費用	（ ）人 / （ ）日 or 月	想定運用費用	（ ）人 / （ ）日 or 月
添付資料の有無		あり・なし	
以下、承認、署名、印鑑欄			
依頼部署	役職	担当者名	日付
			印
	GM		印
受託部署			
情報システム部			印
情報システム部	UM		印
情報システム部	GM		印
事前テスト確認および本番リリース確認部署			
			印
	GM		印
情報システム部			印
情報システム部	GM		印
実稼働確認部署			
			印
	GM		印
情報システム部			印
情報システム部	GM		印

実際の資料：システム開発依頼書

- ・ 目的
- ・ 内容
- ・ 目標
- ・ 効果測定方法
- ・ 承認スタンプラリー

簡単な文字修正の依頼さえ、
この依頼書のスタンプラリーをクリア
したものがその栄光をGETできる！

dinos

バックログと共(友)に新しいEC運用

～*最強のプロジェクト管理ツール導入*～

バックログと共(友)に新しいEC運用

システム開発依頼書			
管理番号		記入日	
		起案部署	
		担当者(代表)	
以下、起案部署記入欄			
件名		通常・緊急・区分	通常
標準	該当する本年度経営目標にチェックをつけてください。		
項目	<input type="checkbox"/> 売上予算の達成 <input type="checkbox"/> 粗利予算の達成 <input type="checkbox"/> 品質とサービスの追及 <input type="checkbox"/> 新規顧客の獲得 <input type="checkbox"/> 商売力強化のための施策 <input type="checkbox"/> 社内外リソースの活用・連携(ナレッジの共有・スキルの伝承・協業など) <input type="checkbox"/> 経営目標の該当なし		
行	以下の選択肢の該当する項目にチェックをつけてください。		
される	<input type="checkbox"/> 売上高の向上 <input type="checkbox"/> 業務効率化・コストの削減 <input type="checkbox"/> 顧客・取引先・ユーザー部門満足度の向上 <input type="checkbox"/> 新規顧客獲得 <input type="checkbox"/> その他 <small>※選択肢のない場合は、必ず寄附する旨に「IT」を明記し寄附料を添付してください。</small>		
内容			
数量	効果		
目標	目標		
関連部署(複数可)		担当者(複数可)	
添付資料の有無		あり・なし	
以下、情報システム部記入欄。起案部署からの提出時には情報システム部と事前に打ち合わせて記載された状態で提出すること。			
効果	(別紙例示あり)		
測定	指標の収集方法		
方法	指標収集の主体者		
の方	指標を用いた効果の検証方法		
	効果の検証時期	年	月
想定開発費用	() 人 / () 日 or 月	想定運用費用	() 人 / () 日 or 月
添付資料の有無		あり・なし	
以下、承認、署名、印鑑欄			
依頼部署	役職	担当者名	日付
			印
	GM		印
受託部署			
情報システム部			印
情報システム部	UM		印
情報システム部	GM		印
事前テスト確認および本番リリース確認部署			
			印
	GM		印
情報システム部			印
情報システム部	GM		印
実稼働確認部署			
			印
	GM		印
情報システム部			印
情報システム部	GM		印

バックログ課題登録に置き換え
運用フローを確立

実際に見てみましょう！

<https://dcp.backlog.jp/add/SDP>

バックログと共(友)に新しいEC運用

2016→2023現在、**346**プロジェクトが運用中…！！！！

総合通販ならではのバリエーション豊富な使い方

その中でもユニークな使い方をしている

プロジェクトをいくつかご紹介

バックログと共(友)に新しいEC運用

Dinos事業におけるカタログやweb表記などの 校正管理をプロジェクト化

<https://dcp.backlog.jp/projects/SNKS>

バックログと共(友)に新しいEC運用

社内システムへの頻度高い
お問い合わせをプロジェクト化

<https://dcp.backlog.jp/projects/SAM>

dinos

社内へのアンラーンをどの様に行った？

～*バックログ編*～

社内へのアンラートをどの様に行った？

当時は様々な古き良き文化があった（まあ今も…）

- ・ 回覧板文化（見たら印鑑を押す）
- ・ 全ての申請書が紙で行われる
- ・ エクセルがとんでもない事になるくらいの運用

社内へのアンラーンをどの様に行った？

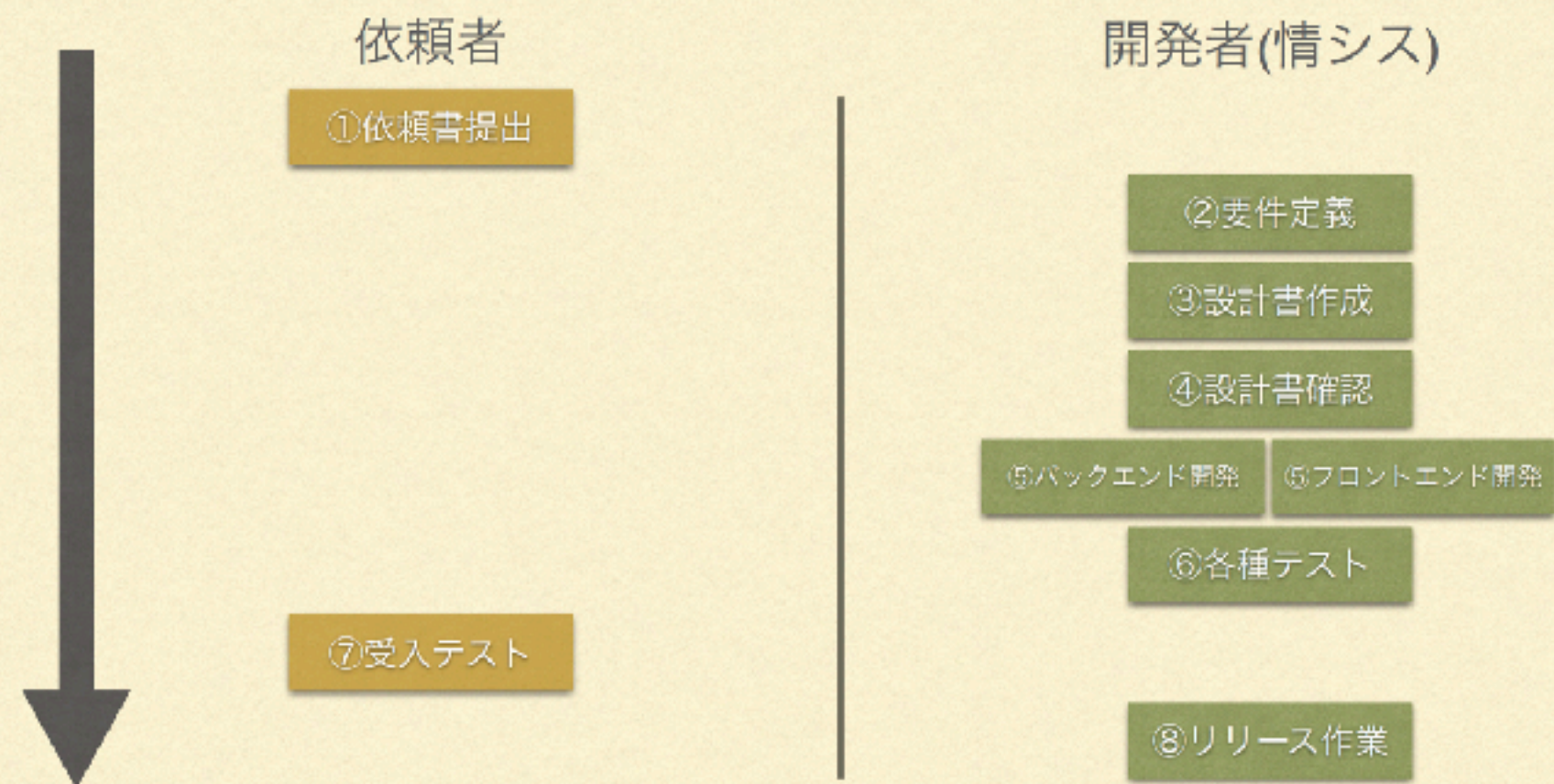
自らひたすらバックログ使って動く💧

- ・ 開発依頼書を1日に5枚～10枚のペースで仕上げ
効率の悪さをアピール
- ・ バックログプロジェクトに置き換えた場合のイメージを
勝手に作成し見せつける

社内へのアンラーンをどの様に行った？

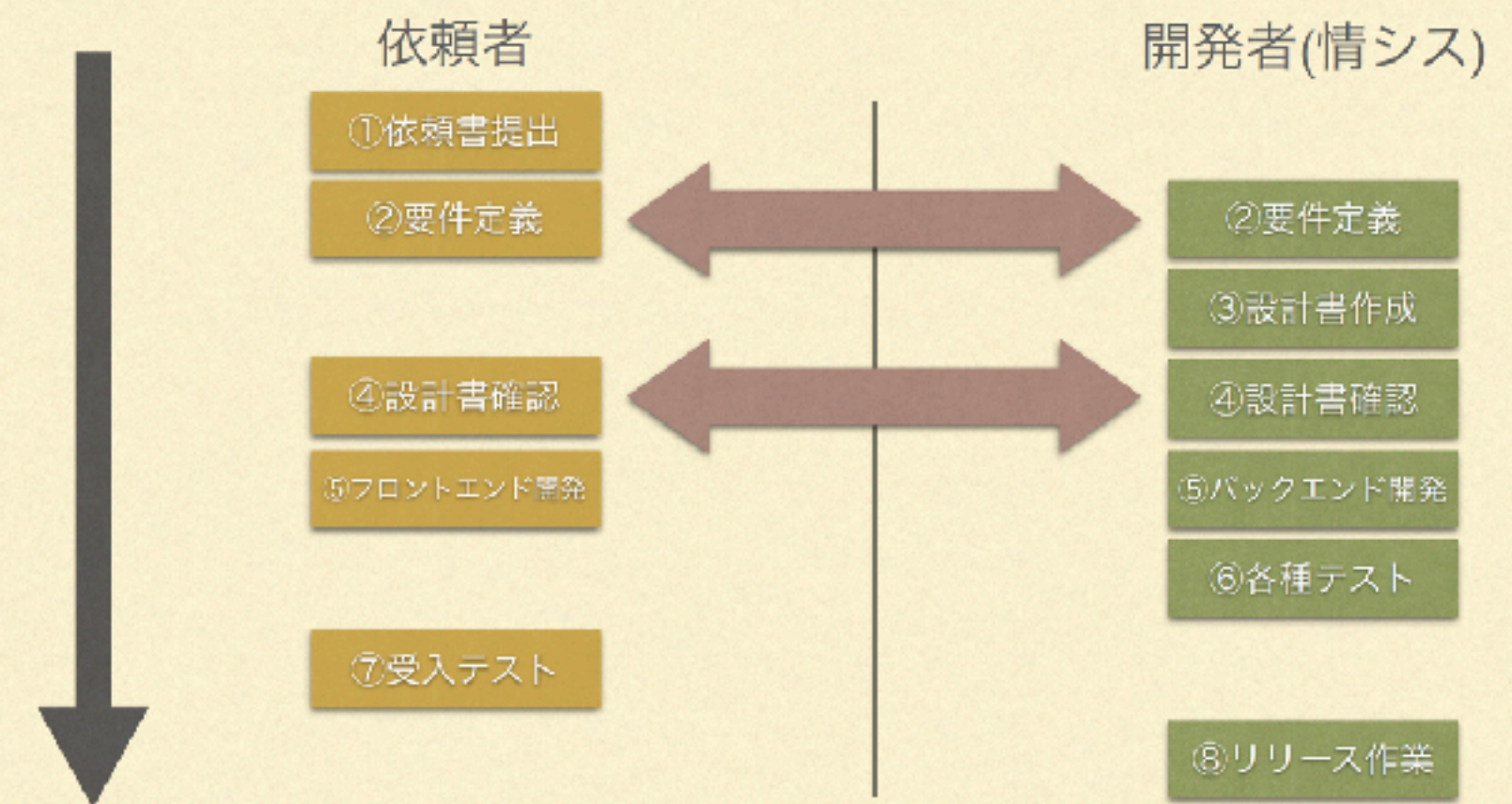
運用フローで気になるところがあれば一緒に改善

現状フロー図



現状は要件定義が情シス主体となり、設計がなされて行くケースが多い為、また依頼書の内容が薄く想定外の仕様が多い為、本来の依頼内容と違った納品物になってしまうケースがある。また画面設計を含む各設計書の確認時間が少ない為に、漏れてしまうパターンが増え、バグが多い傾向にある。

変化後フロー図



依頼者側も要件定義と設計書確認に入り共有する事により、出来上がりイメージの齟齬を無くす事ができる。また構築目的を開発者と共有しながらすすめられる為、お互いのアイデアを膨らませやすくなり、結果質の高い納品物となる。依頼書もバックエンド構築を意識した形で渡す事により、想定漏れ防止や時間の短縮になる。更に一部フロントエンドを含む開発に関しては中島の方で引き取る事ができるため、開発の作業スピードを上げる事ができるようになる。

社内へのアンラーンをどの様に行った？

いくつかのプロジェクトが起動乗ると各部署に噂が波及



<EC運用の仕事>

- ・ マーケの施策管理
- ・ クリエイティブ制作業務
- ・ システム開発

社内へのアンラーンをどの様に行った？

社内で個人的なお問い合わせにつながる状況になる

1つ1つ丁寧に運用を紐解き

バックログの運用に落とし込む作業を一緒に行う

奇想天外編

～*こんな事あり??*～

バックログの得意なところ（と思っている）

タスクの整理が容易になる
重要なタスクを優先的に管理できる
タスクの進捗状況を追跡できる
プロジェクト全体の進捗を視覚的に確認できる
チーム内でのコラボレーションが促進される
タスクの詳細情報を一元管理できる
未解決の問題や課題を容易に特定できる

チーム内でのコミュニケーションが円滑になる
新しいアイデアや要望を収集できる
タスクのリンクや関連性を設定できる
プロジェクトの進捗レポートを生成できる
プロジェクトの遅延を早期に識別できる
タスクの移動や優先順位の変更が容易
カスタムテンプレートを作成できる

チ
バックログを



ChatGPT

カスタムフィルターを追加できる
バグトラッキングに使用できる
統計データを収集しプロジェクトの進行状況を分析できる
タスクのステータスを一括更新できる
タスクの優先度を調整できる
タスクの状態に応じて通知を受け取れる
タスクの履歴を追跡できる

タスクのカスタムフィルタリングができる
チームメンバーの能力を最大限に活用できる
タスクの履歴を監査できる
プロジェクトのリスク管理が効果的に行える
タスクの進捗報告が容易
タスクのドラッグアンドドロップで並べ替えられる
バックログを通じてプロジェクトの成功を追求できる

バックログの苦手なところ（と思っている）

過度な情報の過剰負荷を引き起こすことがある

バックログが過大になると、管理が難しくなる

タスクが優先順位を持っているにも関わらず、長期間保留されることがある

タスクの詳細を適切に更新しないと、情報の不足が生じる

バックログの整理やフィルタリングに時間がかかることがある

チーム内でのコミュニケーションの代替として使用され、情報の断片化を引き起こすことがある

バックログを管理するための追加のツールやソフトウェアが必要な場合がある

タスクが優先順位を持っているにも関わらず、長期間保留されることがある

バックログの定期的な更新が不足していることがある

適切なカテゴリーやタグ付けが不足していることがある

バックログの情報がセキュリティリスクにさらされる可能性がある

チームメンバーがバックログにアクセスしないことがある

バックログが肥大化すると、管理が難しくなる

タスクの削除やアーカイブが不足していることがある

タスクの優先順位付けが主観的であることがある

チーム全体がバックログの価値を認識していないことがある

タスクの完了が確認されないままになることがある

バックログの情報がセキュリティリスクにさらされる可能性がある

プロジェクトの緊急性を正確に把握するのが難しいことがある

バックログの更新が手間と時間を取ることもある

チーム内でのバックログの使用方法に一貫性がない場合、混乱が生じる可能性がある

プロジェクトの方向性や目標が変更された場合、バックログの修正が必要になる

タスクの評価や優先度付けが主観的であることがある

バックログの情報が失われるリスクがある

バックログが適切にバージョン管理されていない場合、混乱が生じる可能性がある

チームの新メンバーにとってバックログの理解が難しいことがある

タスクのステータスの適切な更新が怠ることがある

チームの全員がバックログを定期的に確認しない場合、情報が見落とされることがある

プロジェクトの進捗がバックログから適切に反映されないことがある

タスクの完了が確認されないままになることがある

バックログにはタスクの詳細が含まれていますがコミュニケーション不足に陥ることがある

情報を利用するリスクがある

重要なタスクが後回しにされることがある

混乱が生じる

場合、タスクの重複や過不足が生じる可能性がある

がある

の遅延が発生する

プロジェクトのリーダーシップが損なわれることがある

検索が困難

バックログの調整が必要

なる

ない場合誤った情報をもとに計画が立てられることがある

バックログを適切に更新するためには、訓練や教育が必要

タスクのフィルタリングやソートが効率的でない場合、情報の取得が遅くなる

チーム全体がバックログの価値を認識していない場合、無視されることがある

バックログの情報が過去のプロジェクトと混同されることがある

バックログのデータがセキュアに保護されていない場合、機密情報が漏洩するリスクがある

タスクのカスタムフィールドを適切に管理しないと、情報が混乱しやすくなる

バックログの情報を不正にアクセスするリスクがあるため、セキュリティ対策が必要



ChatGPT

バックログの苦手なところ（と思っている）

- マニュアルとしての利便性（wikiなど）
- 長期的（半年以上）スケジュール管理
- プロジェクトを跨いだステータス管理

パートナーとして**アンラーン**取り入れて
一緒に課題解決していききたい

まとめ

- ▶ 改善できると思う形を自ら作って近くの人に見てもらう
 - 長い&難しい資料や説明は不要
 - 同じ様な考えを持っている人を巻き込む
- ▶ 会社の規模に合わせてミニマムスタート
 - まずは身の回りの改善から
 - 複数の他部署を巻き込む事がポイント
- ▶ 今行っている業務や行動を常に疑う事

ご清聴ありがとうございました！



DINOS CORPORATION

中島 弘輔

090 - 4451 - 4768

kousuke.nakajima@dinos-corp.co.jp

